

しゃらく互助倶楽部 おかげさまで創業20年

生活支援だより

Vol. 33

2025年11月

こんにちは、生活支援が充実した神戸の安全・安心の身元保証サービス、しゃらく互助倶楽部です。

しゃらく互助倶楽部で提供したサービスを皆さまにお届けします。将来的な問題に備えて皆様の参考になれば幸いです。

活動記

会員様のご自宅のお片付け



このたび、施設にご入居された会員様より、ご自宅の片づけのご依頼をいただきました。すでにお身体が不自由になられ、ご自宅に戻ることが難しくなったとのこと。私たちしゃらく互助倶楽部のスタッフが現地を訪問したところ、その物量は想像をはるかに超えるもので、正直に「私たちの手には負えないかもしれません」とお伝えしました。

しかし、会員様は車や重機が大好きで、トミ力をはじめとするミニチュアカーを長年にわたり大切に収集されてきたとのこと。業者に一括で処分されてしまうことに強い不安を感じておられました。実は、会員様ご自身もかつて家財整理のお仕事に携わっておられた経験があり、業界の実情をご存じだからこそ、「信頼できる人に扱ってほしい」と、私たちに整理を託してくださいました。

ご自宅は3階建てで、1階から3階までのすべての部屋、廊下、階段に至るまで、ミニチュアカーやラジコンが所狭しと並べられていました。中には、私の背丈ほどもある大型のラジコンもあり、そのコレクションの規模に圧倒されました。

私たちは1階から順に丁寧に片づけを進め、売却可能なものと処分が必要なものを一つひとつ仕分けしました。不要品は1階の駐車場に運び出し、最終的には2トンロングトラック4台分の廃棄物が出ました。一方で、リサイクルショップなどで販売できそうな品は、各部屋に20～30箱、合計で100箱以上にもなりました。

驚いたのは、これだけの数があるにもかかわらず、同じミニチュアが一つとしてなかったことです。会員様の記憶の中には、すべてのコレクションがしっかりと刻まれているのだと感じ、胸が熱くなりました。

現在、残すはあと1部屋。片づけが完了すれば、次は販売方法の検討に入ります。玩具に詳しくない私にとっては不安もありますが、会員様にご満足いただけるよう、心を込めて最後までお手伝いしてまいります。

また、会員様からは「施設の部屋にもお気に入りのミニチュア重機を持ってきてほしい」とのご希望もいただいております。きっと、それらが心の支えとなっているのだと思います。これからも、会員様の想いに寄り添いながら、丁寧にサポートを続けてまいります。



右：トラックに積んだ家財
中：駐車場に貯めた不要物
左：売れるであろうモノ

月	火	水	木	金	土・日
		1 支援(受診付添2ヶ所) 支援(外出付添) 支援(施設へ訪問)	2 支援(受診付添)	3 支援(受診付添)	4・5 支援(受診付添)
6 支援(外出付添・お食事付添) 会員様訪問	7	8 支援(外出付添) 支援(受診付添) 緊急支援	9 支援(葬送打合せ付添)	10 支援(受診付添3件) 旅リハ 支援(告別式付添) お便り発送	11・12
13 支援(沖縄付添)	14 支援(外出付添) 支援(沖縄付添)	15 支援(死後事務役所・年金事務所付添) 支援(旅行計画相談) 支援(沖縄付添)	16 支援(役所、他手続き付添) 支援(沖縄付添)	17 支援(受診付添)	18・19
20 支援(受診付添)	21 支援(京都付添)	22 支援(外出付添) 支援(京都付添)	23	24 支援(ご自宅清掃) 支援(受診付添) 支援(東京付添)	25・26 支援(東京付添)
27 互助セミナー西区 支援(外出付添)	28 支援(区役所付添) 支援(ご自宅清掃)	29 互助セミナー明石地区	30 互助セミナー東灘地区	31 互助セミナー中央区	

病院への付き添いの日々

自立心が強く、これまで何事もご自身でこなしてこられた会員様がいらっしゃいます。しかし、年齢には抗えず、最近ではしゃらく互助倶楽部の生活支援をご利用いただく機会が増えてきました。

最初のきっかけは、疥癬（かいせん）を患われたことでした。そこから病院への付き添いが始まりました。疥癬は無事に治癒されたものの、その後もさまざまな皮膚のトラブルに悩まされるようになりました。かゆみ止めを処方されても、かゆみからつい掻いてしまい、できたかさぶたを丁寧に剥がしてしまう日々が続いています。

当初は室内を歩いて移動されていましたが、次第に足元が不安定になり、転倒されることも増えてきました。転倒によってできた大きなあざをまた掻いてしまい、皮膚がさらに荒れてしまう…。そのたびに病院を受診するという、つらい繰り返しが続いています。最近では、数日に一度、施設から通院の付き添い依頼が入るようになりました。病院では、まだ薬が手元に残っていても「もうない」とおっしゃることもあります。おそらく、病院に行くこと自体が、安心感につながっているのかもしれません。

完治までには時間がかかることが予想されますが、施設のスタッフの皆様とも連携しながら、会員様の気持ちに寄り添い、丁寧にサポートを続けていきたいと思っています。

今月のご相談 会員様より「墓じまい」のご依頼をいただきました

このたび、しゃらく互助倶楽部の会員様より「墓じまい」のご相談をいただきました。ご本人のご希望は、現在のお墓を整理した後、ご自身が希望されるお寺の永代供養墓に、ご家族とともに納骨されたいというものでした。

ご依頼を受け、まずはお墓を建立された石材店に連絡を取り、墓じまいにかかる費用の見積もりを依頼しました。続いて、墓地がある市営墓地の管理事務所に連絡し、墓じまいの手続きについて確認を行いました。ところが、ここで大きな課題が浮かび上がりました。お墓は法律上「相続財産」ではなく「祭祀財産」とされており、名義変更には「祭祀承継者」の決定が必要とのことでした。現在のお墓の名義は会員様のご尊父様のままであり、名義変更を行わなければ墓じまいの手続きが進められないということです。

お墓にはご両親と、兄・姉お二人が埋葬されています。会員様は四人きょうだいの末っ子で、もう一人の兄の所在が不明であること、また生存しているかどうか分からない状況とのことでした。さらに、もし生存していたとしても、過去のつらい出来事や家族間のトラブルから、会いたくないという強いお気持ちをお持ちです。

家族の事情はそれぞれ異なりますが、法律や行政の手続きにおいては、そうした個々の背景が十分に考慮されないこともあります。現在、会員様は公正証書遺言を作成されており、その過程で相続人調査を行った結果、行方不明だったお兄様の所在も判明しました。今後は、会員様のご希望を実現するために、専門家のご意見を伺いながら、慎重に手続きを進めてまいります。

腰の限界がきた。

9月から宿泊を伴う出張が続いています。その中には、身長180cm・体重97kgの寝たきりの方と一緒に5泊6日の海外旅行もありました。車いすからベッドへの移乗、ベッドから車いすへの移動、舗装の整っていない道や段差の多い場所での車いす操作など、身体的に負担の大きい日々が続き、次第に腰に違和感を覚えるようになりました。

その後も、会員様のご自宅の整理をお手伝いする生活支援のため、10日以上にわたり訪問。大きな家具や家電を一人で2階や3階から1階まで運び、駐車場に整理する作業が続きました。体力的な疲労というよりも、腰への負担が限界に達しているのを感じています。

思えば、私は幼稚園から高校卒業まで剣道に打ち込んでいました。当時の部活動は、今とは違い、正月から大晦日まで休みなく、夏休みや冬休みも朝から晩まで練習に明け暮れていました。その頃、腰椎椎間板ヘルニアを患い、痛みを和らげるために注射を打ちながら稽古を続けていたことを思い出します。

今回の痛みはそこまで深刻ではないものの、立っているだけでギシギシとした痛みを感じるようになりました。48歳になり、体が思うように動かない自分に、少し情けなさを感じることもあります。

これからは、体力と筋力の維持・向上にも意識を向け、自分の身体としっかり向き合っていくと、改めて感じている今日この頃です。

今年のセミナーを終えて

今年度のセミナーも、無事にすべての日程を終了いたしました。これまで年に2回の開催を続けてまいりましたが、今回を含め、延べ600名近い方々にご参加いただきました。ご参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

これまでのセミナーでは、参加者数の増加に伴い、終了後の個別相談に十分な時間を確保することが難しくなるという課題がありました。そこで今回は、あえて規模を縮小し、ポスティングの配布部数も従来の3分の1程度に抑えて開催いたしました。

それにもかかわらず、当日は72名もの方々にご参加いただき、大変ありがたく思っております。特に印象的だったのは、2回目・3回目のリピーターの方が多かったこと、そして50代のサラリーマン風の方々の参加が目立ったことです。

セミナー後の個別相談会では、参加者の皆さまがご自身の状況やお悩みを率直にお話くださり、私たちも可能な限りのアドバイスや情報提供をさせていただきました。

身元保証サービスは、生前のサポートからご逝去後の手続きに至るまで、非常に幅広い内容を含んでいます。一度のセミナーですべてをご理解いただくのは難しいかもしれません。少し時間が経ってから「やっぱり聞いておきたい」と思われることもあるかと思います。そのような際には、どうぞ遠慮なくご連絡ください。今後も、皆さまのお力になれるよう、丁寧な対応を心がけてまいります。



コラム NPO法人しゃらく設立20周年に寄せてⅢ：松尾やよい様より

困っている人がいると心が動く。世の中をより良くしたい、暮らしやすくしたい。その思いを、単なるボランティアではなく「仕事」として社会に根づかせ、課題解決の仕組みをつくりたい——。透き通るようなまなざしと、力強い情熱を胸に語る人々が現れた。

須磨寺商店街に事務所を借り、4人で自炊の共同生活を送りながら、1杯のかけそばを分け合い、1匹の魚を4人で食べる日々。冬に事務所を訪ねた際には、暖房もつけず、ダウンフードを目深にかぶり、悴む手でパソコンを打つ姿があった。寒さに弱い私は、早々に退散したのを今も覚えている。

しゃらくの真髄は、人が手を出さない領域にあえて挑み、手を差し伸べるその無謀さと独創的な発想にある。外から見れば「本当にそんな方法で？」と思うこともあるが、彼らは臆することなく前進する。その挑戦が成り立つのは、何より信頼があるからこそである。この20年間、一つひとつの積み重ねによって築き上げてきたのは、揺るぎない信頼にほかならない。

率直な物言いの奥に、人への興味と深い優しさが息づいている。だからこそ、県や市といった行政機関との事業をはじめ、企業や個人の支援者からも長く信頼を得てきたのだろう。

「良いNPOになる」という約束を果たし、有言実行を重ねてきた集団。私はこれからも、NPOしゃらくのファンであり続けたいと願っている。 夢こらぼ 主宰 松尾やよい